ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	鴨志田　加奈

主な担当科目	ダンスⅠ③、ミュージカル演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ミュージカルワークショップⅡ

2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	個人で担当するダンス授業では、プロフェッショナルを目指す学生が学べき技術、表現に対する姿勢、コミュニケーション能力に焦点を当て授業の組み立てを行い、実践の中で適宜、学生の能力や傾向と擦り合わせ工夫していくことを大切にする。作品の創作と発表に関わる演習授業では、各セクションの調整役として常に学生の学習環境や学習題材の適切さに配慮し学生一人ひとりの学びを保証するよう努める。
2025年の教育に関する自己評価	着任初年度であったが、コースの学生の特徴やカリキュラムに配慮しながら、概ね上記目標を達成できたと考える。授業進行の中で、学生の能力や経験値の差や多様性について難しさを感じる場面もあったが、個別最適な学びと協働的な学びのバランスをとりながら授業を進める方法を継続的に模索していきたい。特に、配慮が必要な学生だけでなく、力量のある学生の双方が同じく成長できるような授業を整えるべく、丁寧な計画と準備を行いたい。

2025年のFD活動に関する自己評価	対象期間に実施されたFD活動には全て出席し積極的に活動できたと考える。着任初年度でもあった為、FDを通して他学科の先生方も含め、多くの先生の教育観や日々の考察に触れることができ、本学での職務に対する方向性を確認できた。特にそれぞれの分科会FDでは一人一人の教員が発言する時間が充分に取られ、またその発言の中で議論やコミュニケーションが深まることで問題点が具体的に解決される場面もあった。毎回のFD活動が教育活動への意欲を新たにできる機会となった。
授業改善のために取り入れた研修内容	4月のFD合同研修会で改めてハラスメントについての基礎を意識できたことは、その後の授業での自身の姿勢を考える良い機会となった。ミュージカル分科会FD活動においては伴奏教員の重要性などについて日頃の気づきを先生方と共有することができ、授業の質の向上に繋がる議論が行えた。音楽教養分科会FD活動においては、学生の多様性への配慮について日常的な様々な事例を知ることができた。

2025 年度（春学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：3791　教員名：鴨志田　加奈

1）アンケート結果に対する所見

回答者数が少ないためアンケートとしての妥当性については検討が必要であるが、回答した４名の評価は、授業全体平均をどの項目も上回っており、担当授業において一定以上の学びを教授できたと考えられる。比較的数値が低めの項目 Q8（「自分はこの授業の教育到達目標を達成できた」）について、この問いに対する回答は自身への真摯な評価や自己評価の厳しさの表れとも読み取れる。改めて到達目標を具体的に示しアンケートを行うとまた違った評価や数値になるかもしれないと感じる。Q9（授業を受けて力を高めることができた）の質問項目にある、「専門技能・知識」「自己表現力」「実践力」に対し、「文化・教養」「多様性理解」「コミュニケーション能力」の数値が半減している。前者に対して後者は、習得したことを自身で実感することや振り返ることが難しい項目でもあるだろう。本演習においては、コミュニケーションや他者理解が必要不可欠であり、多くの学生がこれらの課題に対峙しながら成長する過程が教員としては認識できた。学生本人が改めて自己認識をすることで、成長を実感する場合も多い内容だと考えるため、教員からその成長を認識させる言葉がけも必要かもしれないと考える。しかし全体において回答者が 25%という状況なので明言は難しいところである。

2）要望への対応・改善方策

コメント数は各授業2つと少なめであったが、全体としては自分の成長につながった充実した授業であったという肯定的な内容であった。1 点、特定の教員について授業進行のスムーズさに欠けるというコメントが見られた。複数教員担当演習授業の調整を行う分科会メンバーである自身の立場から考える方策としては、授業に参加する全員（教員・学生・研究員含め）が見通しを持ちやすいスケジュールの提示、臨機応変な変更などへの相互理解を促進するための細やかな連絡などの配慮等、具体的な方策を講じるとともに、学生・教員双方の協働性の向上に日頃から働きかけることも必要であると考える。

3）今後の課題

まず、アンケートの回収率が低いことを改善しなければならない。また、アンケートを行う際に授業の到達目標の再確認やアンケート項目の説明などを丁寧に行うことで、学生の真意が反映されたアンケートを回収できるようにしたい。またミュージカル演習・実習は充実感と達成感を実感しやすい内容ではあるが、その分感情昇華に焦点が当たりがちで、学生本人が学びのプロセスを認識することが難しい科目でもある。そのためこの様な授業アンケートを通して到達目標に対して自身を省察し、自身の成長や課題を多方面から認識できる機会にもできると良いと考える。

以　上

2025 年度（秋学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：3791　教員名：鴨志田　加奈

アンケート結果をいただいた3つ授業の内、ミュージカル演習Ⅱの結果について以下に計画を示す。（他2つの授業はオムニバス授業であり全体所見を書くことが難しいため）

1）アンケート結果に対する所見

全ての設問文に対する評価が全体平均を上回り、3分の2項目の平均点が4というように非常に高い授業満足度であったことがわかった。設問9では、専門技能・知識と実践力の項目が100%という数値であり、演習授業の特性である実践的な学びや成長を学生自身が実感できている様子が窺える。

2）要望への対応・改善方策

自由記述は授業を高く評価する短いコメントが 2 件あった。要望は特になかった。

3）今後の課題

学生の集団特性により指導方法に工夫も必要となるが、来年度以降も学生の学びや成長につながる授業運営に尽力していきたい。

以　上